

出向く宮農レポート

～ジャガイモの栽培について～



南部宮農センター 東郷事務所
山口 堇

今回は、令和6年度に女性のアグリスクール中級を卒業した野々山永里子さんの圃場へ訪問しました。

野々山さんが農業を始めたきっかけは、親族から農地を引き継いだことでした。初めはインターネットや雑誌で調べながら野菜を栽培していましたが、「直接指導を受けながら農業を学びたい」と思い、アグリスクールへの参加を決意しました。

スクールでは、土づくりをはじめ、野菜の栽培から産直出荷までを実践的に学びながら野菜づくりの楽しさを実感し、現在は産直出荷をしながら日々農業に励んでいます。訪問した際もスナップエンドウやタマネギ、ジャガイモなどが栽培され、どれも丁寧に管理されていました。

ジャガイモを栽培するうえで気を付けたい害虫の一つが、テントウムシダマシです。その名のとおりテントウムシに見た目が似ていますが、アブラムシを食べてくれる益虫のテントウムシとは、全く異なる害虫です。テントウムシダマシは4月頃から発生し、葉に網目状の食害痕を残します。ナスやトマトなどのナス科作物を食害しますが、中でもジャガイモの被害が最も多く、食害されると葉が枯れることもあり、収量が著しく減少するため注意が必要です。



テントウムシダマシが成虫になる前の早めの発見と駆除が重要なので、今回は栽培中のジャガイモにアディオン乳剤やダントツ水溶剤の散布を提案しました。

ジャガイモの 病害虫対策

アディオン乳剤

- 希釈倍数：2,000～3,000倍
- 使用量：100～300L/10a
- 使用時期：収穫14日前まで



ダントツ水溶剤

- 希釈倍数：2,000～4,000倍
- 使用量：100～300L/10a
- 使用時期：収穫7日前まで



現在野々山さんは、夏野菜の出荷に向けてナスやキュウリ、カボチャなどを栽培しており、収穫後は豊明・東郷グリーンセンター「Love it TO²」へ出荷する予定です。アグリスクール卒業生が出荷した野菜はピンク色のシールが貼ってあります。グリーンセンターで見かけた際は、ぜひ手に取って食卓を賑わせてください。

このシールが
目印です！

